

図書館だより



2017年(平成29年)
12月18日・月曜日
第6号
北海道旭川永嶺高等学校
図書館

長期貸出、始めました

冬季休業に伴う、長期貸し出しをしています。12月22日(金)までです。この期間に借りた図書は、1月22日(月)までに返却してください。貸し出し冊数も5冊に増やしています。普段、忙しくて時間がとれない人も本校図書館の図書を利用して読書に親しんでみませんか。なお、冬休み中は休館します。



新着図書はカウンター前に

124冊の新着図書をカウンターの前のブックトラックにまとめておいています。各図書の内容については、簡単なものですが、紹介・説明を記載した別刷りの新着一覧をご利用ください。

市立中央図書館が月曜開館

冬休み期間中の旭川市中央図書館の月曜開館について下記の通り、お知らせします。

- 1 開館日 12月25日(月)、1月8日(月)9日(火)、15日(月)の4日間
※1月8日(月、成人の日)は祝日開館、翌1月9日(火)の振替休館日も開館。
- 2 開館時間 9:00~18:00
- 3 その他
(1) 冬休み期間中に月曜開館するのは、中央図書館のみ。
(2) 各地区図書館、分室はいずれも休館。
(3) 12月29日(金)は館内整理日、12月30日(土)~1月4日(木)は年末年始のため、全館・全室休み。

※ 市内の各地区図書館や近郊の公共図書館の通常の開館日時や所在地、電話番号は、本校図書館発行の「図書館利用案内」で確認できます。

サンタクロースって いるんでしょうか？

ご存知の人も少なくないと思いますが、今から120年も前のニューヨークに住む、8歳の女の子が新聞社(ニューヨーク サン)に出した「サンタクロースって いるんでしょうか？」という質問に、フランシス・チャーチは、これに答える形で社説を書きました。そしてこの社説は、1949年に新聞が休刊されるまで毎年掲載され、世界で最も有名な社説となりました。この社説を紹介したいと思います。日本では「サンタクロースって いるんでしょうか？」という書名で偕成社から出版されています。

ニューヨーク・サン新聞 1897年9月21日 社説欄

本紙は、以下に掲載される投書に対してただちにお答え申し上げるとともに、このように真っ直ぐな方が読者におられることを、心から嬉しく思います。

「こんにちは、新聞のおじさん。
わたしは八さいのおんなのこです。じつは、ともだちがサンタクロースはいないというのです。パパは、わからないことがあったら、サンしんぶん、というので、ほんとうのことをおしえてください。サンタクロースはいるのですか？
ヴァージニア・オハンロン」

ヴァージニア、それは友だちの方が間違っているよ。きっと、何でも疑いたがる年ごろで、見たことがないと、信じられないんだね。自分の分かることだけが、全部だと思ってるんだろう。でもね、ヴァージニア、大人でも子どもでも、何もかも分かるわけじゃない。この広い宇宙では、人間って小さな小さなものなんだ。僕たちには、この世界のほんの少しのことしか分からないし、ほんのこのことを全部分かろうとするには、まだまだなんだ。実はね、ヴァージニア、サンタクロースはいるんだ。愛とか思いやりとか労りとかがちゃんとおるように、サンタクロースもちゃんとしているし、そういうものが溢れているおかげで、人の毎日は、癒されたり潤ったりする。もしサンタクロースがいなかったら、ものすごくさみしい世の中になってしまう。ヴァージニアみたいな子がこの世にいなくなるくらい、ものすごくさみしいことなん

だ。サンタクロースがいなくていいってことは、子どもの素直な心も、作り事を楽しむ心も、人を好きって思う心も、みんな無くなってことになる。見たり聞いたり触ったりすることでしか楽しめなくなるし、世界をいつも暖かくしてくれる子どもたちの輝きも、消えて無くなってしまおうだろう。

サンタクロースがいなくていいなんていうのなら、妖精もいないっていうんだらうね。だったら、パパに頼んで、クリスマスイブの日、煙突という煙突全部を見張らせて、サンタクロースを待ち伏せしてごらん。サンタクロースが入ってくるのが見られずに終わっても、何にも変わらない。そもそもサンタクロースは人の目に見えないものだし、それでサンタクロースがいなくていいってことにもならない。ほんとの本当っていうのは、子どもにも大人にも、誰の目にも見えないものなんだよ。妖精が原っぱで遊んでいるところ、誰か見た人っているかな？ うん、いないよね、でもそれで、無いて決まるわけじゃない。世界で誰も見たことがない、見ることができない不思議なことって、誰にもはっきりとはつかめないんだ。

あのガラガラって玩具、中を開ければ、玉が音を鳴らしてることが分かるよね。でも、目に見えない世界には、どんなに力があっても、どれだけ束になってかかっても、こじ開けることのできないカーテンみたいなものが掛かってるんだ。素直な心とか、あれこれ遅くすること・したもので、それから、寄り添う気持ちや、誰かを好きになる心だけが、そのカーテンを開けることができて、その向こうのすごく綺麗で素敵なものを、見たり描いたりすることができる。嘘じゃないかって？ ヴァージニア、いつでもどこでも、これだけは本当のことなんだよ。

サンタクロースはいない？ いいや、今この時も、これからずっといる。ヴァージニア、何千年、いや後十万年経っても、サンタクロースはいつまでも、子どもたちの心を、わくわくさせてくれると思うよ。



大久保ゆう訳

*翻訳の平仮名の大部分を読みやすくするため漢字に改めました。